

8302 私の父は、この世でいちばん幸せなのは・・・

私の父は、この世でいちばん幸せなのは平凡な人間だ、という信条の持主であった。だから、凡人として生きて行けるように願って、おまえに加藤一郎という平凡な名前をつけたのだ、と子供の頃に父から聞かされたことがある。

父の願いは実現し、私は、外見的にも才能の面でも、すこぶる平凡な人間として成長した。

海渡英祐『小箱の中の死』

[許容訳例]

My father was a man who had the firm belief that the happiest man in the world was the average man.

“That’s why, in the hope that you would live as an ordinary man, I gave you a commonplace name, Kato Ichiro,” he told me when I was a boy.

His wish has been realized. I grew up into a perfectly average man both in appearance and in abilities.

[翻訳例]

My father held the firm belief that the happiest man in the world was the average man. That was why, he told me when I was a boy, he has given me the perfectly ordinary name, Kato Ichiro—in the hope that it would help me to live as a perfectly ordinary human being.

His wish has been realized. In both appearance and abilities, I grew up to be an utterly undistinguished man.

■私の父は、この世でいちばん幸せなのは平凡な人間だ、という信条の持主であった。
(8302)

★「私の父」は my father です。

★「この世で」は in the world です。

●「隠れ連体修飾節」（いちばん幸せなのは→いちばん幸せである人は）

「・・・のは」の「の」は「である」という意味を端折った言い方で、実質は「連体修飾節（この世でいちばん幸せである）＋不定代名詞的体言（の→人）」ですが、ここでは the happiest man in the world と句でまとめることができます。happy の代わりに lucky（運のいい）は、ここでは使えません。

★「平凡な人間」は the ordinary man ですが、ordinary の代わりに average でも意味はわかるとおもいます。辞書には commonplace も出ていますが、これはちょっと軽蔑した意味になりますから、ここでは使わない方がいいでしょう。

★「信条」は belief の他に、my father’s motto[creed] that…もいいでしょう。

●「・・・という＋名詞」（同格）

「・・・という信条」は、冠詞は a でも the でもいいですが、どちらかと言うと the belief

that…と定冠詞の方がいいでしょう。a belief that…とすると、‘一つの信条を持っているが、それは・・・だ’という感じになります。もっと簡単な例で言いますと、たとえば、In the room there was a man who was smoking a cigarette.は‘部屋には一人の男がいて、(彼は)タバコを吸っていた’という感じです。ですから、the belief that…の方が、that 以下との限定性が強くなり、日本語の‘・・・という信条の持主であった’という表現に近くなると思います。

★「・・・という信条の持主」→「(～は)・・・という信条を持っている」ですが、「持っている」は have a [the] belief that…より、普通は held a [the] belief that…を使います。

●「隠れ連体修飾節」(「信条の持主」と「信条を持っている人」の処理について)

「～は・・・という信条の持主であった」は「～は・・・という信条を持っていた」とすれば My father held the belief that…で処理できます。ただ、ここを「～は・・・という信条を持っている人であった」と「人」(man)を入れると、冠詞に注意が必要です。「父は・・・という信条を持っている人(の一人)であった」という意味にするには My father was a man who…と不定冠詞です。My father was the man who had the belief…とすると「何人かの人がいて、その中で・・・という信条を持っている人であった」ということになります。つまり、既に特定の男の人たちのことを念頭において、その中で誰が・・・という信条を持っている父親に当たるかという質問に対する答えの形になるわけです。簡単な例で言うと、たとえば、My father is the man in the green hat [with the red nose].という場合、‘そこに何人かいる男の中で緑の帽子をかぶっているのが私の父です’ということになります。ですから、ここでは What kind of a man is your father?という質問に‘いくつか考えられるタイプの中では・・・というタイプの人である’ということになります。なお、この部分は、他には It is my father's belief[motto; creed] that…という言い方も可能です。

■「だから、凡人として生きて行けるように願って、おまえに加藤一郎という平凡な名前をつけたのだ」(8302)

★「だから、・・・したのだ」は、終わりのところに「と父から聞かされたことがある」とあるので直接話法でもいいでしょう。もっとも、全体を間接話法にした方が英語の習慣としては普通です。いずれにしても、「だから・・・なのだ」は、That is[was] why…です。

★「凡人として」は as an average[ordinary] man です。

★「生きて行けるように」は、過去のことですから、日本語通りに訳すと you would be able to live…ですが、これは日本語の意味とは異なって「そうでもしないと生きていけない」と断言したような感じになってしまいます。日本語の意図どうりに表すなら you would live…か、自然な英語にするには it would help you to live as an average[ordinary] man です。

●「・・・(し)て・・・する」

「・・・(し)て・・・する」は「本動詞+句」で対応することができます。ここは「願って・・・と名前を付けた」ですから、この「句(願って)」は in the hope that…か、あるいは hoping that…です。

★「おまえに加藤一郎という平凡な名前をつけた」は「加藤一郎」という名前と、次の同格

の「平凡な名前」の処理が、ちょっと厄介です。動詞に name を用いるなら I named you Kato Ichiro—a perfectly common name しかなく、ちょっとくどくなります。「名前を付ける」には、他に give somebody a name があります。これを使うと I gave you a common, Kato Ichiro となります。ここのところを直接話法でなく間接話法にすると he gave me a common name, Kato Ichiro, [--] in hoping that I would…となります。

■子供の頃に父から聞かされたことがある。(8302)

★「子供の頃に」は when I was a boy です。なお、ここでは as a boy は使えませんし、in my childhood も使わない方がいいです。たとえば、He told me as a boy とすると he が boy の頃となってしまうし、in my childhood は本人（私）が主語になっている場合に使うことが多いと思います。In my childhood he told me…は文法的には間違いではないでしょうが、普通は In my childhood I was told…となります。

★「父から聞かされたことがある」は、‘そういえば、こういうことがあった’という過去の回想のようなもので、「聞かされたことがある」という表現にこだわる必要はないと思われますが、単に、he said to me（父が私に言った）より he told me の方が「事実・事情・経緯を知らせる」（he informed me）と、場合によっては‘注意した’という意味も入りますから、ちょうどこの場合にぴったり合うと思います。

■父の願いは実現し、私は、外見的にも才能の面でも、すこぶる平凡な人間として成長した。(8302)

★「父の願い」は my father's hope[wish; desire]です。my father's は his でも可能です。

★「実現する」は realize ですが、ここは主語が「父の願い」ですから has been realized です。なお、ここは過去のことが現在も続いているだけではなく、いくらか感慨深そうな感じもするので過去時制ではなく現在完了です。

★「外見的にも才能の面でも」は both in appearance and in abilities でも in both appearance and abilities でもかまいません。

★「すこぶる」は utterly くらいでいいでしょう。real を使うと「正真正銘の」という感じになって、ちょっと合わないと思います。

★「平凡な人間」は an average[ordinary] man を使ってきましたが、ここでは自分のことを言っている訳ですから、上では使わなかった commonplace を使ってもいいでしょう。あるいは、undistinguished を使うと an utterly undistinguished man と語呂もよくなります。なお、この man は human being でもいいです。ちょっと自虐的になりますが、それから man の代わりに person は使えません。自分のことを述べる場合、なぜか person はあまり使わないような気がします。人から personと言われた場合怒る人もいます。特に this person…は相手を非常に低く見た感じですが、何かとても冷たい感じのする言葉だと思います。

★「・・・として成長した」は grew up as…より grew up into…あるいは grew up to be…の方が結果の感じがはっきり出ていいと思います。

